

ブロヒ・ナスールラー研究員（パキスタン）



はじめまして。私はパキスタンから来ましたブロヒ・ナスールラーと申します。パキスタンの国家災害管理庁では課長補佐として働いています。私は、社会科学の分野と、政治学における国際連携に関する分野で修士号を取得しています。また、現在働いている国家災害管理庁においては、災害サイクルで示されている、予防、対策、緊急対応などのすべての局面において、関連する業務を経験しています。例えば、国家災害管理庁においては、防災に関する政策提言や、災害時の緊急支援、プロジェクトの実行などの業務を行っています。

次に、パキスタンについて紹介いたします。パキスタンは多くの海岸や砂漠地帯、平地、山岳地帯など様々な地理的特徴を有しています。これにより、多種多様な気候帯が国内に存在しています。自然災害の視点では、パキスタンでは地震、洪水、氷河湖決壊（GLOF）、地すべり、サイクロンなど多くの災害におけるリスクが存在し、防災という点では自然災害に対して最も脆弱な国の一つです。過去、悲劇的な災害であった2007年10月に発生したパキスタン地震は、国家防災条例2007の策定など、パキスタンの防災対策のメカニズムを見直す契機となりました。そして、私が所属する国家災害管理庁は国家防災行動2010を整備することになりました。

客員研究員としての研究テーマとしましては、パキスタンと日本における事例を参考とした、「パキスタンにおけるコミュニティ主体の早期警戒システム」について考察したいと考えています。日本はすでに防災対策における効果的なメカニズムを構築し、特に防災教育はパキスタンなどの災害多発国において有効なモデルとなっています。ADRCは同分野における経験があり、今回の私の研究を考察する上で大きな助けになると思います。今回、アジア防災センター（ADRC）の客員研究員としての機会を頂いた、ADRCと日本政府、またパキスタン政府と国家災害管理庁に改めて感謝を申し上げます。この度の客員研究員としての機会は、パキスタンにおける防災対策の向上のため、私の専門的の分野における経験においても、貴重な機会になると思います。